

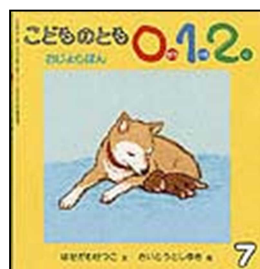
B. 少しなれてきたら

寝る、起きる、食べる、おしっこやうんちなど毎日の生活と結びついた物事に、赤ちゃんの興味が広がっていきます。家族、動物、のりもの、おもちゃなど、自分の身のまわりにあるものにも関心を持ち、知っているものを見つけると喜びます。絵の中にかくれているものをさがしたり、違いを見つけたりすることもおもしろくなってくるので、一緒にやってみるのも楽しいでしょう。

『おじよらぼん』（「こどものとも 0.1.2.」2004 年 7 月号）

はせがわ せつこ／文 さいとう としゆき／絵 福音館書店

「こどものとも 0.1.2.」は、0歳から2歳を対象とした絵本で、毎月1冊発行されています。その中から1冊ご紹介します。



夜です。眠りにつこうとしている子どもに、親が語りかけます。「おやすみなさい、〇〇ちゃん、おじよらぼん、おじよらぼん、ねんねんねん」と。繊細な絵と優しいことばのひびきが、心地よく眠りにさそってくれそうです。

『おとうさん あそぼう』（くまくんの絵本）

わたなべ しげお／ぶん おおとも やすお／え 福音館書店

「おとうさん あそぼう！」すると、おとうさんぐまは、くまくんをたかいたかいしたり、おうまさんになったり、いっぱいあそんでくれました。おしまい、ご本を読んでおやすみなさい。

リズム感のある文でくまくん一家の日常生活を描き、親子のふれあいがいきいきと伝わってきます。



『ぎったん ばっこん』

なかえ よしを／文 上野 紀子／絵 文化出版局

ぎったんばっこんに、とりさんがとまって「ぎー」、ねずみくんが来て「ばーこ」。それから、うさぎさん、いぬさん…と増えてきて、かわるがわるに「ぎったんばっこん」。最後は、ぞうさんもやって来て、みんなそろって、「ぎったんばっこん」。次々にあらわれる動物たちが、交互にシーソーに乗っていく、テンポの良い絵本です。



『きんぎょが にげた』 五味 太郎／作 福音館書店



「きんぎょが にげた。どこに にげた。

おや また にげた。こんどは どこ。」

思わず歌ってしまうようなリズム感のある文で、きんぎょさがしが始まります。カーテンの模様になったり、お花や果物にまぎれたり…。

きんぎょをさがしだす楽しみ、見つけて指さす喜びが味わえます。

『こちょ こちょ こちょ』 うちだ りんたろう・ながの ひでこ／作 童心社

さっちゃんはお会ったともだちみんなをこちょこちょします。かえる、ライオン、ゴリラにおばけ、ビルディングまで、みんなひっくりかえって大よろこび。おやおや、初めはつっぱっていたやまあらしまで、おひるね中のさっちゃんに、「こちょこちょしてよー」と甘えていますよ。



『つみき』 中川 ひろたか／ぶん 平田 利之／え 金の星社

いろんな大きさ、いろんな形のつみき、ひとつ、ふたつ、みっつ……。みんなでつんだつみきに、てんとうむしがとまったよ。あれあれ、どうなっちゃうのかな？

一つ一つのつみきがとても表情豊かに描かれています。読んだ後はぜひ、つみきで一緒にあそんでくださいね。



『おかあさんのパンツ』 山岡 ひかる／作 絵本館

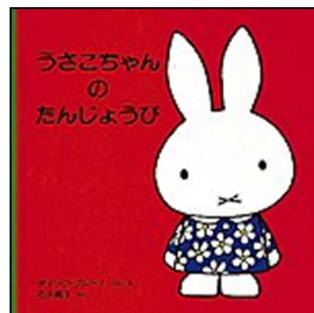


わたしのかわいいサクランボのパンツ。おかあさんがはいたら、ドーンとりんごになっちゃった。チューチューねずみさんのパンツ。おかあさんがはいたら、ウォーとくまさんになっちゃった。次々に登場するパンツの変わりように、子どももおかあさんも思わず大笑い。

『うさこちゃんのたんじょうび』

ディック・ブルーナ／ぶん・え 石井 桃子／やく 福音館書店

今日はいさこちゃんのたんじょうび。とうさんかあさんからプレゼントをもらって、おともだちともあそんで、夜には、おじいさんとおばあさんまで、うさこちゃんに会いに来てくれました。ごちそうを食べて、プレゼントのくまさんと一緒に眠ります。ああ、楽しいおたんじょうびだった！



『うんちが ぽとん』 アロナ・フランケル／え・ぶん さくま ゆみこ／やく アリス館

まあくんは、おむつをしています。ある日、おばあさんから、おまるのプレゼントが届きました。最初はうまくいかなかったけど、まあくんはおまるが気に入って、ちゃんと使えるようになりました。



『おうちのともだち』 柳原 良平／作・絵 こぐま社



おうちの中は、みんなのともだちでいっぱいです。毎朝、顔を洗うときにはコップちゃんやはぶらしくん、かがみくんにおはようとあいさつします。

カラフルなタッチで描かれた身のまわりの物が、親しみのある表情で語りかけます。

『おててがでたよ』（くつくつあるけのほん）

林 明子／さく 福音館書店

赤ちゃんが、オレンジ色の布を頭からすっぽりかぶっています。「おててはどこかな」「おててがでたよ」と、ページをめくるごとに、あたま・おかお・あんよが一つずつ現れます。「これでみんな出てきたね」と、うれしそうな笑顔でしめくりです。



『おんなじ おんなじ』 多田 ヒロシ／著 こぐま社



なかよしの「ぶう」と「ぴよん」には、おんなじ物がいっぱい。靴も、帽子も、おもちゃも同じ。でも、最後にぽけっとから落ちた物だけはちがいました。

「おんなじ」と「ちがう」ということばの意味を、リズムカルな文とユーモラスな絵で表現しています。

『コップちゃん』『スプーンさん』

中川 ひろたか／ぶん 100%ORANGE／え ブロンズ新社

ほとんどモノクロのシンプルな絵。

『コップちゃん』では、オレンジジュースが入るとコップちゃんの色が変わるところが印象的です。



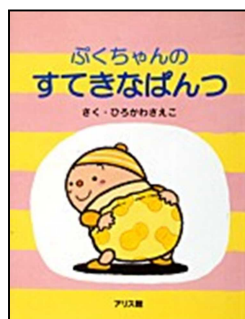
『スプーンさん』では、とことこ歩いたり、すべりだいをしてあそんでいるスプーンさんが、ヨーグルトを見つけると、すくって、みんなのお口にいきますよ。

『ぶくちゃんの すてきなばんつ』

ひろかわ さえこ／さく アリス館

ぶくちゃんばんつが大好き。でもおしっこがまにあわなくて、いつもぬらしてしまいます。でも大丈夫。おかわりばんつがあるんだもの！

あせらなくてもいいよというメッセージが伝わってきます。トイレトレーニング中の親子にぜひ読んでもらいたい一冊。『ぶくちゃんのたくさんだっこ』もおすすめです。



『おやすみ』

なかがわ りえこ／さく やまわき ゆりこ／え グランママ社



たくさんあそんだ一日の終わり。おふろに入って、晩ごはんを食べて、歯をみがいたら、おやすみなさい。おやすみ前のおはなしと子もりうたも忘れずに。

子どもたちの身近な日常生活が描かれています。眠りたくないとうずっていた子も、絵

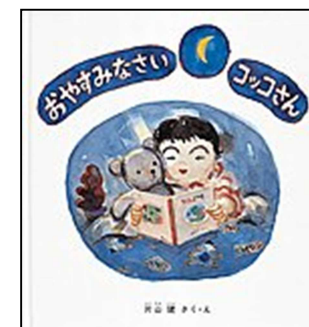
本を読み終える頃には、「おやすみなさい」がしたくなることでしょう。

『おやすみなさい コッコさん』

片山 健／さく・え 福音館書店

雲も魚も鳥もみんな眠ってしまったのにまだ眠らないコッコさん。そんなコッコさんにお月さまが眠りにつくまで静かに語りかけます。

眠る前のひととき、ゆったりした気持ちで楽しみましょう。

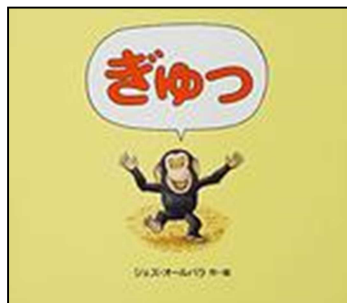


『ねんね』 さえぐさ ひろこ／文 アリス館



キツネにライオン、ゴリラにコアラ・・・動物たちのかわいい寝顔に「ねんね ねんね」と優しいことばで呼びかけると、気持ちがやすらことができます。キリンやシロクマはこんなふうに眠るの？そんな驚きも楽しい、動物への親しみや理解を深められる写真絵本です。

『ぎゅっ』 ジェズ・オールバラ／作・絵 徳間書店



森を歩いていたジョジョは、いろいろな動物たちが「ぎゅっ」をしている姿を見て、ママに会いたくなります。ところが、なかなか会えなくて、ついには涙がこぼれたとき、「ジョジョ！」というママの声がします。

ことばでは伝わりにくいことも、きっと「ぎゅっ」をすれば伝わります。

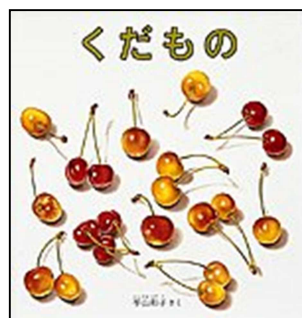
『すりすり ももんちゃん』(ももんちゃんあそぼう)

とよた かずひこ／さく・え 童心社

動物がももんちゃんにすりすりしにきます。でも、さぼてんさんにもすりすりされて、「いたっ」。涙をこらえて我慢する表情、最後におかあさんにだっこされ、こらえきれずに大泣きする姿が、とてもいじらしく、かわいらしくて共感できます。読み終わると思わず、すりすりせずにはいられなくなりますよ。



『くだもの』 平山 和子／さく 福音館書店



おいしそうなりんごがひとつ。皮をむいて、小さく切って、フォークにさして、さあどうぞ。すいか、ぶどう、いちごなど、おいしそうなくだものがたくさん出てきます。絵本の中に、よく知っている物が出てくると、指さしたり、手を出して食べるまねをしたり、子どもはとも喜びます。

『しろくまちゃんのほっとけーき』(こぐまちゃんえほん)

わかやま けん／え こぐま社



しろくまちゃんがホットケーキづくりに挑戦します。フライパンの中でおいしく焼けていくホットケーキの絵と、「ぽたあん」「ぴちぴち」「ふくふく」などのことばのひびきがぴったり！

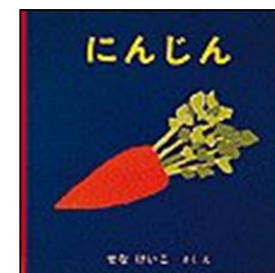
自分で作る喜びやだれかと食べる喜びなどを、しろくまちゃんと一緒に楽しんでみませんか。

『にんじん』 せな けいこ／さく・え 福音館書店

「にんじんのすきなこだあれ」

たくさんの動物たちが次から次へとおいしうににんじんを食べはじめます。

味わいある和紙のちぎり絵とリズミカルな文章が楽しい絵本です。



『うしろにいるのだあれ』 ふくだ としお／さく 新風舎



「わんわん」「にゃーにゃー」「ちりんさん?!」(きりんさん!)

見開きいっぱいの動物の絵が「〇〇にいるのだあれ」のくり返しでつながって、ページをめくるたびに赤ちゃんのかわいい声が聞こえてきそうです。

最後のページには、ちょっとした驚きがかくされています。

『おかあさんといっしょ』 藪内 正幸／さく 福音館書店



おかあさんと一緒にあそんでいるさまざまな動物たち。犬はじゃれあい、猫は気持ちよくあごをなでてもらっています。最後にかばの子がおかあさんと一緒におおあくび。表情豊かな動物たちがいきいきと描かれています。

『たまごのあかちゃん』 かんざわ としこ／ぶん やぎゅう げんいちろう／え 福音館書店

「たまごのなかで かくれんぼしてる あかちゃんはだあれ？ でておいでよ」のかけ声で、ページをめくる度に、いろんな動物たちが、たまごの中からあらわれます。「何のたまごだろう？ 何が出てくるのかな？」と想像して、わくわくします。



あざやかな色使いの絵が、楽しさをひきたててくれます。

『むしむし だあれ？』

今森 光彦／さく 今森 洋輔／え 童心社

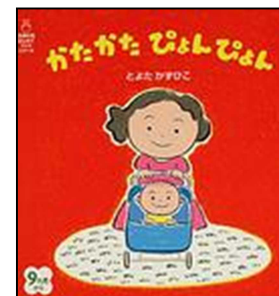


はじめて虫たちと出会ったときの驚きを感じていますか？ 小さな体で一生懸命生きている小さな命。ダンゴムシにチョウ、カマキリにテントウムシ、カブトムシにクワガタ。こわがらずにじっくり見てみると、そこには命の不思議がいっぱいつまっています。身近な虫たちに親しみがわく絵本です。

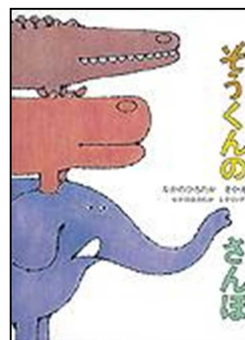
『かたかた ぴよんぴよん』

とよた かずひこ／作・絵 主婦の友社
にんげんの赤ちゃん、ベビーカーにのって、「おさんぽ おさんぽ、かた かた かた」。
カンガルーの赤ちゃん、おかあさんのふくろから顔出して、「おさんぽ おさんぽ、ぴよんぴよん ぴよん」。

おさんぽって楽しいね。



『ぞうくんのさんぽ』 なかの ひろたか／さく・え 福音館書店



今日は、いいお天気。ごきげんなぞうくんは、おさんぽに出かけます。途中で出会ったかばくん、わにくん、かめくんを、次々と背中にのせて・・・さて、このゆかいなさんぽ、どうなるのかな。淡い色調と、くり返しのことばが優しく、一緒におさんぽに出かけたくなるような絵本です。

『へびくんのさんぽ』 いとう ひろし／作・絵 鈴木出版

へびくんがさんぽをしていると、道のまん中に水たまり。よいしょと長い体を橋みたいにしたところで、「背中をわたらせて」「どうぞどうぞ」。ところが、ありやとかげばかりか、ライオンやぞうまでわたっちゃったんだから、もうへとへと。へびくん、どうしたと思います？



『ずかん・じどうしゃ』 山本 忠敬／さく 福音館書店



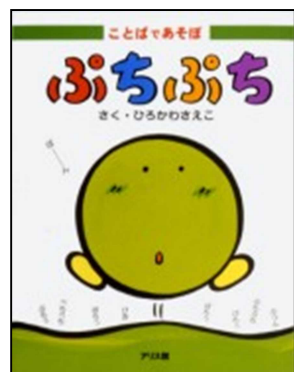
バスやトラック、パトカーなど、いろいろな種類の車が、正確に美しく描かれています。のりもの好きの子どもたちは、この絵本をくり返し飽きることなく眺め、車の名前や形、特徴などを覚えてしまうことでしょう。

『よいしょ』（はたらくるま） 三浦 太郎／作 偕成社

車は人をのせて走るだけではありません。土を運んだり、物を運んだり、みんなのために働きます。ダンプカーやホイールローダー、それにフォークリフトにブルドーザー、パワーショベル、みんな力持ちばかり。「よいしょ」と力をあわせてがんばります。



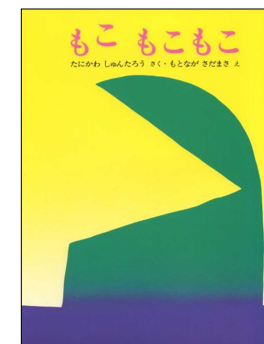
『ぷちぷち』 ひろかわ さえこ／さく アリス館



ある日みどりのさやの中から「ぷちぷち ぽーん」と飛び出したみどりのマメつぶ。「ぽっこぺっこ」と歩いていたら、黄色いお花の中に「すぽ」。そこから「びゅーん」と飛び出したら…。ことばのひびきを楽しみながら読みたい、小さなぼうけんのおはなしです。

『もこ もこもこ』 たにかわ しゅんたろう／さく もとなが さだまさ／え 文研出版

大人にはよく理解できない本でも、子どもたちにはとても人気がある絵本があります。そんな絵本の代表がこの『もこ もこもこ』です。抽象的な絵と不思議なことばがあいまって、強い印象を与えます。読み手によって全くちがったものになるのも、この絵本の不思議な魅力なのかもしれません。



『うたえほん』 つちだ よしはる／え グランママ社



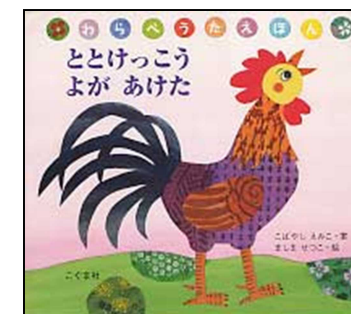
「ぞうさん」「いぬのおまわりさん」「むすんでひらいて」など、歌いつがれてきた童謡や子もりうた26曲を、さし絵つきで紹介。子どもの頃を思い出しながら歌ってみてください。すべての歌に歌詞と楽譜がついています。

『ととけっこう よがあげた』 (わらべうたえほん)

こばやし えみこ／案 ましま せつこ／絵 こぐま社

朝です。いちばん早起きはにわとりさん、歌いながらみんなを起こしに出かけます。ほら、ひよこも、こぶたも、こうしも、ぼうやも、元気におはよう。

親子でわらべうたを楽しむ絵本シリーズの1冊です。他に、おいかけっこが楽しい『まて まて まて』やあそびうたの『あがりめ さがりめ』などもあります。



はじめての絵本Q & A

Q1. どうして、赤ちゃんに絵本を読んであげるの？

A1. 絵本は大人と子どもが共有できるあそびの世界です。「ふれて、見て、聞いて、読んで、体験する」ことができます。絵本を読んでもらうことは、ことばを少しずつ豊かにし、好奇心や感受性、想像力を育てるのに役立ちます。

また、絵本を楽しむことで、おかあさんやおとうさん、周りの大人の心も豊かになり、赤ちゃんとのきずなが強まります。子どもの視線、子どもの心が読み取れる柔軟性を持ち続けるためにも、絵本を子どもと一緒に楽しみましょう。

Q2. 生後何ヶ月ごろから絵本を読んであげればいいのか？

A2. 個人差が大きいので、いつからと決まっているわけではありません。生後数ヶ月の赤ちゃんでも、絵本の絵をじっと見ていることがあります。

赤ちゃんが興味を示したら、赤ちゃんにあそび方法の一つとして、絵本を読んでもてください。赤ちゃんにとって、絵本は、手を使ってページをめくると、次々にいろいろなものや形があらわれるおもちゃのようなもの。絵本をとおして、赤ちゃんと一緒にあそびましょう。



Q3. どうやって読んであげたらいいの？

A3. 赤ちゃんが心地良い状態（おなかいっぱい、おしりもきれい）のときに、だっこしたりひざにすわらせたりして、おたがいのぬくもりを感じながら読んであげましょう。テレビや音楽は消して、ゆったりした気持ちで、いつも赤ちゃんに話しかけると同じようにごく自然に読んであげてください。



大切なのは、「絵本ってなんだか楽しいな」と思ってもらえることなので、読んであげたいと思う本を赤ちゃんと一緒に楽しんでください。赤ちゃんは、大好きな人が読んでくれること、それ自体がうれしいのです。

Q4. どんな絵本を選べばいいのか？

A4. 0～2歳ぐらいまでは、子どもの身のまわりにある物や日常生活を描いた絵本がおすすめです。子どもは、絵本の中に自分の知っていることや物を見つけて楽しめます。絵本の形態は、丈夫でめくりやすいもので、文字も少なめのものを。リズムカルなことばのくり返して書かれたものは、特に子どもの目にも耳にも心地良いようです。

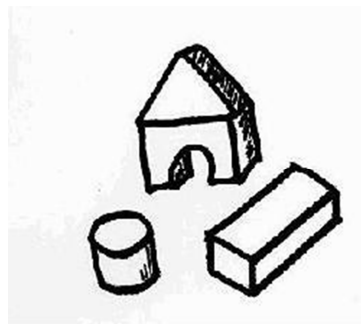


図書館には、たくさんの本があります。このリストも参考にしながら、お気に入りの本を探してみてくださいね。本選びに迷ったら、図書館員にお気軽におたずねください。

Q5. なかなかじっと聞いてくれません

A5. 赤ちゃんにとって、絵本は特別なものではありません。おもちゃと同じで、最初はなめたりかじったり。絵本の最初から最後までじっと聞かなくてあたりまえです。無理に最後まで読み聞かせようとしないで、赤ちゃんと一緒にあって絵本を楽しんでください。赤ちゃんとお遊びながら、ゆっくりとくり返し読んであげているうちに、赤ちゃんもだんだんと絵本を楽しめるようになっていきます。

今興味がなさそうでも心配しなくて大丈夫。子どもと本との出会いが始まったばかりです。

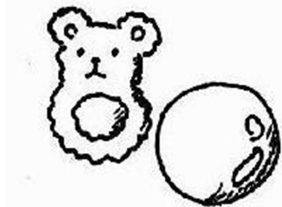


Q6. 何度も同じ本を読んでほしいがるので困ります

A6. 子どもはお気に入りの本を何度も読んでもらうのが大好きです。大人は「こんなに同じ本ばかりでいいのかな」とか「他の本を読んであげたいのに」と思うこともあるかもしれませんが、時間の許すかぎり、くり返し読んであげてください。「何度でも読んでもらいた

いな」という子どもの気持ちを大事にしてあげましょう。

もっと聞けそうだなと思ったら、他の本も読んでみるといいですね。それが、新たなお気に入りの1冊になるかもしれません。



子育てにわらべうたを

～親子でわらべうたを楽しみましょう～

わらべうたは、地域で、子どもたちの間で、昔から自然に歌いつがれてきました。ひびきの良いことばと、心地よいリズムを持ち、聞く人をリラックスさせてくれます。そして、歌いやすく覚えやすいので、子どもはくり返し歌って楽しめます。また、あそびを伴うものが多いので、親子のふれあいにもなります。

うまく歌わなくても大丈夫。あそびの一つとして、気軽な気持ちで、わらべうたを子どもたちと一緒に楽しみましょう。

♪ぎっこばっこひけば♪：舟こぎ

おとなは床にすわって足をのばし、のばしたひざの上に子どもを座させます。子どもの手をにぎり(このとき、おとなの親指をつかませると安定します)、ボートをこぐときのように、歌にあわせてリズムよく押したり引いたりします。最後の「みなのだ」の「だ」のところで足を開いて、子どもをストンと落とします。子どもはキャッキッと大喜び。



<わらべうたを紹介した本>

『赤ちゃんから遊べる わらべうたあそび 55』



久津摩 英子／編著 チャイルド本社

全部で 55 曲のわらべうたが、0 歳から 5 歳までの年齢別に、あそび方と共に紹介されています。前ページで紹介した「ぎっこばっこひけば」も載っています。

『おはようからおやすみまでの 12 のわらべうたえほん』

小林 衛己子／編 おおい じゅんこ／絵 ハッピーオウル社

起きたとき、顔を洗うとき、寝るときなど、赤ちゃんの一日に合わせて使えるわらべうたが紹介されています。

『あかちゃんのごきげんがよくなる 12 のわらべうたえほん』という本もあります。赤ちゃんとおそぶときはこちらをどうぞ。



『ふれあいあそびうた絵本 親子あそび (1)』



コンセル／原案 遠藤 賢一／絵 コンセル

わらべうただけでなく新しいあそびうたも紹介されています。CD付きです。

シリーズには、「からだあそび」「手あそび」「指あそび」「みんなあそび」もあります。

☆もっと詳しく知りたいという方には『「わらべうた」で子育て 入門編』阿部 ヤ卫／著 福音館書店 という本もぜひ。